

今年もメジロが帰ってきました。

先日、^き紀の^{かわし}川市のキウイ畑にメジロが^す巣をつくったという新聞記事を読みました。キウイとメジロの組み合わせにびっくりした^{ほんめん}反面、我が家で巣作りしたメジロは、今年は来ないものとあきらめていました。

というのは、夏の終わりに巣立った後、巣だけが残っていたのですが、春の^{あらし}嵐で落ちてしまいました。捨ててしまうのもかわいそうだと思い、庭の隅^{すみ}に置いてそのままになっていました。ところが、今朝^{けさ}、ハナミズキの枝に見覚えのある巣が架^かかっているのです。テニスボールくらいの^{はんえんけい}半円形をした大きさで、メジロが顔をのぞかせています。メジロもリフォームするのかなと思いました。

メジロは和歌山^{けんちよう}県の県鳥で、県のHPには、「日本特有の小鳥で本県に多く、県民に親しまれています。ウグイス、ヤマガラなどとともに保護鳥に指定されています。（昭和40年12月16日指定）」とあります。

また、現在「^{ちようじゆうほごほう}鳥獣保護法」で「^{やちよう}野鳥」として認定されていて、捕獲^{ほかく}すること、ペットとして飼育^{しいく}することも禁じられています。理由は、自然の生態系^{せいたいけい}を守ることを第一としているからです。ただ、野外で野鳥を観察できない^{こうれいしゆ}高齢者等については、自然とふれあう^{きかい}機会を設けることが必要である場合に限って許可^{きよか}されることがあるようです。

メジロは、英名では「Japanese White-eye」と呼ばれていて、目の周りにある白い輪^{まわ}が由来^{ゆらい}しています。体が小さく^{ねら}狙われることが多いメジロは、眠^{ねむ}るときも集団で固まって枝にとまる^{しゅうせい}習性をもっているのです。「目白押し」という言葉が生まれたとも言われています。



(令和4年5月28日)

